

平成28年度

**全国学力・学習状況調査の
結果について**



海老名市立今泉小学校

目次

全国学力・学習状況調査について	P. 1
「国語に関する調査結果」と「今後の具体的な取組」	P. 2
「算数に関する調査結果」と「今後の具体的な取組」	P. 3
「児童質問紙の結果より」と「今後の具体的な取組」	P. 4
ご家庭で取り組んでいただきたいこと	P. 5



資料 学習・生活習慣と学力との関係

文部科学省が全国の児童生徒の調査結果を分析したところ、次のようなことがわかりました。海老名市全体の分析でもまったく同じ結果が出ています。

次のような児童生徒ほど、教科の平均正答率が高い傾向にあります。
(教科に関する調査、児童・生徒質問紙調査より)

【教科への関心・意欲・態度】

- ・国語、算数・数学に対する関心・意欲・態度が高い

【学校生活】

- ・学級みんなで協力して何かをやり遂げうれしかったことがある
- ・先生は、自分のよいところを認めてくれていると思う

【基本的な生活習慣】

- ・朝食を毎日食べる
- ・毎日、同じくらいの時刻に寝る

【社会に対する興味・関心】

- ・地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある
- ・新聞を読んでいる
- ・テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見る事に関心がある

【家庭学習・読書】

- ・学校の授業時間以外での学習時間が長い
- ・自分で計画を立てて学習をする
- ・学校の宿題、授業の予習・復習をする
- ・読書が好き、読書時間が長い、学校や地域の図書館に行く頻度が多い

【家庭でのコミュニケーション】

- ・家の人と学校での出来事について話をする
- ・家の人は、授業参観や運動会などの学校行事に来る

【自尊感情・規範意識】

- ・ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある
- ・学校のきまり、規則を守っている
- ・人の気持ちが分かる人間になりたいと思う

【基本的な生活習慣】

- ・携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをする時間が短い

全国学力・学習状況調査について

全国学力・学習状況調査は、平成19年度に始まった全国一斉の調査です。平成22～24年度は抽出調査(平成23年度は震災の関係で実施を中止)でしたが平成25年度から再び、全国すべての小中学校が対象となりました

◆ 調査の目的

- (1) 児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

◆ 調査の対象

- 国・公・私立学校の以下の学年、原則として全児童生徒
- ・ 小学校第6学年
 - ・ 中学校第3学年

◆ 調査内容

- (1) 教科に関する調査

【小学校】

- 国語A・算数A (主として「知識」に関する問題)
- 国語B・算数B (主として「活用」に関する問題)

【中学校】

- 国語A・数学A (主として「知識」に関する問題)
- 国語B・数学B (主として「活用」に関する問題)

「主として『知識』に関する問題」とは？

これからの学習や生活をしていく上で、確実に身につけておかなければならない基礎的な力を調査する問題

「主として『活用』に関する問題」とは？

身につけた基礎的な力を生かして様々な問題を解決したり、工夫して生活したりする力を調査する問題

- (2) 児童生徒に対する質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問

- (3) 学校に対する質問紙調査

指導方法や取組、人的・物的な教育条件の整備の状況等

◆ 調査実施日

平成28年4月19日(火)



国語に関する調査結果

国語 A

(主として「知識」に関する問題)

《優れている所》

- 「漢字を読む」に関する問題の正答率が高いです。(「貯金」100%、「快晴」82.3%)
- 資料読み取りの問題では、目的に応じて、図と表を関係づけて読むことができます。
- 物語文の読解においては、登場人物の人物像を、複数の叙述を基にして捉えることができます。

《努力を要する所》

- 推敲前/後の文章を読み比べ、文章にどのような工夫が加えられたかを読み取る問題の正答率が、低い状況にあります。

国語 B

(主として「活用」に関する問題)

《優れている所》

- 文章の内容から、インタビューの質問の意図を読み取り、目的に応じて適切なものを選ぶことができます。
- 文章の内容を読み、話の展開に沿った質問を書くことができます。

《努力を要する所》

- グラフや表などから結果を読み取り、適切な文章の内容を選択する問題の正答率が低い状況にあります。
- 課題や結果をもとに、わかったことや自分の考えを書く問題の正答率が低い状況にあります。

これまでの取組から

- 漢字の読み書きについては、学校だけでなく宿題等でも練習するようにし、学年の積み重ねを重視してきました。
- 読み聞かせや朝読書等の読書活動を通して、物語や他のジャンルの本に親しむ機会を作っています。

今後の具体的な取組について

- 児童が文章を推敲する際、工夫すべきポイントを明確に伝えることで、文章がどのように変化したかを意識させていきます。
- 文章の中から要点を見つけ、自分の考えを明確にして言葉や文で表すことができるようにしていきます。



算数に関する調査結果

算数 A

(主として「知識」に関する問題)

《優れている所》

- 905-8や $4.65+0.3$ の正答率が高いです。整数や小数の加減法について、位をそろえて計算することを理解しています。
- 図を見て、 1 m 当たりの人数を求める式や、全体に対する部分の割合の大きさの大小を理解しています。
- 4枚の直角二等辺三角形で構成した形を見つけることができます。

《努力を要する所》

- 小数の除法では、 $2.1\div0.7=0.3$
 $18\div0.9=2$ $18\div0.9=0.2$ のような誤答が多かったです。
- 7.1、7、7.01の大小を問う問題で、いちばん小さい数を7.01とする誤答が多かったです。
- 直方体において、示された面に垂直な面を選ぶ問題では、平行な面を含めて選ぶケースが多かったです。

算数 B

(主として「活用」に関する問題)

《優れている所》

- 示された説明を解釈し、用いられている考えを別の場面に適用してその説明を記述することができます。
- 正方形に内接する円の半径について理解しています。
- 単位量当たりの大きさを求めるために、ほかに必要な情報を判断し、特定することができます。

《努力を要する所》

- 長方形の厚紙から、1辺9 cmの正方形を24個切り取ることができるわけを書く問題の正答率が低い状況にあります。誤答のうち、途中までは正答していますが、最後まで記述できていない児童が見られます。
- 示された形をつくることを説明する式の意味を、数や演算の表す内容に着目して言葉で書く問題の正答率が全国に比べて低い状況にあります。

これまでの取組から

- 四則計算については、低学年から繰り返し練習を行うことによって定着を図りました。



今後の具体的な取組について

- 小数の乗法除法では、単位(0.1、0.01)をもとにする考え方や、計算の性質をふまえた指導を丁寧に行っていきます。
- 「なぜそのように考えられるのか？」を言葉や式、図を使って説明する問題の正答率が低いことがわかりました。自分の言葉で説明したり、ノートに書いたりするなどして、理解を深めるよう指導していきます。

児童質問紙の結果より

学習について

《よかった所》

- 本校では、宿題に前向きに取り組んでいる児童が多いです。
(本校93.8%、全国88.0%)
- 家で自分で計画を立てて勉強をしている児童がやや多いです。
(「している」「どちらかといえばしている」が本校66.7%、
全国66.2%)

《課題と思われる所》

- 家庭学習での自学自習においては、教科書を使用しながら学習している児童が少ない状況にあります。
(「している」「どちらかといえばしている」が本校60.4%、
全国64.6%)

生活について

《よかった所》

- 朝食を毎日食べている児童が多いです。
(「している」「どちらかといえばしている」が本校95.8%、
全国95.5%)
- 毎日の就寝時刻、起床時刻から見ても、正しい生活習慣を送っている児童が多いです。

《課題と思われる所》

- 88.5%の児童がテレビゲーム
(コンピューター、携帯型、携帯電話やスマホを含む)を使用して
おり、ゲームの使用方法について再確認する必要性を感じます。
- 「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」の設問で、「あまりして
いない」と答えた児童の割合が18.8%と約5分の1を占めています。

これまでの取組から

- 家庭学習が習慣化するように、低学年から宿題等の家庭学習に取り組めるようにしました。
- 「早寝・早起き・朝ごはん」が習慣化されるよう、折に触れ家庭に呼びかけたり、児童に声をかけたりしました。

今後の具体的な取組について

- 家庭学習についてのねらいを明確に設定し、児童の家庭学習の習慣化を図っていきます。
- ケータイ安全教室等において、テレビや携帯電話・スマートフォンの使い方について指導していきます。



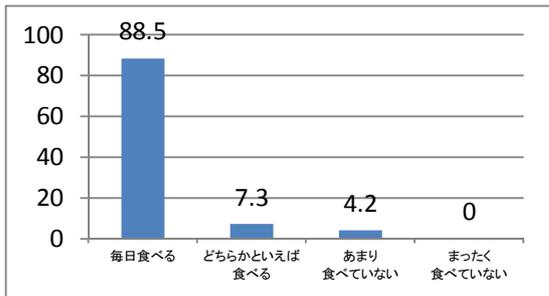
ご家庭で取り組んでいただきたいこと

平成28年度全国学力・学習状況調査の結果の分析より、「ご家庭で取り組んでいただきたい6つの項目」をまとめました。できることから、ぜひ、始めてみてください。

1 朝ごはんを毎日食べて、元気に過ごしましょう

毎日、朝ご飯を食べて登校する児童の割合が高いです。これからも継続しましょう。

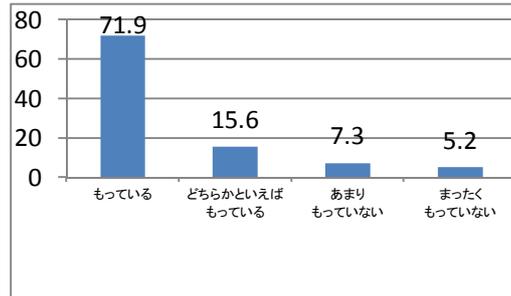
朝食を毎日食べていますか。



2 お子さんと夢や目標について語り合いましょう

「持っている」「どちらかといえば持っている」が昨年度よりも大幅に増えました。

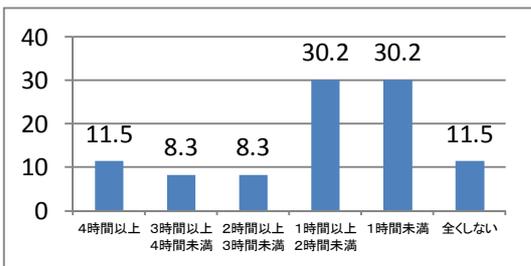
将来の夢や目標をもっていますか。



3 ゲームをやりすぎないよう、注意しましょう

テレビやパソコン等のゲームについて、家庭で決まりを作るなどして、守るようにしましょう。

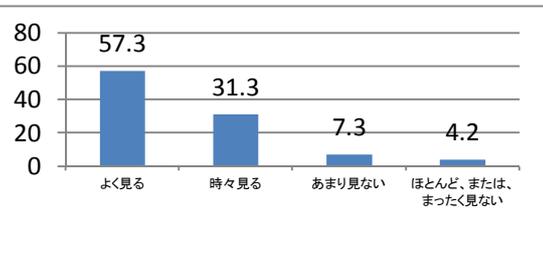
普段、一日当たりどれぐらいの時間テレビゲームをしますか。



4 適切に情報を活用する力を培いましょう

手に入る情報を取捨選択して活用するなどして、正しい情報モラルを身につけましょう。

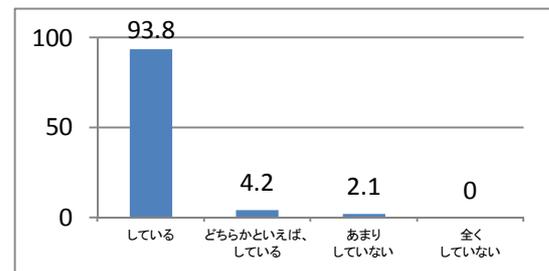
テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見ますか。



5 家庭学習の習慣を継続しましょう

家庭学習の習慣となっているお子さんがほとんどです。ぜひ、継続していきましょう。

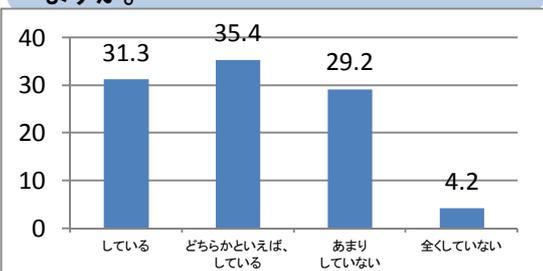
家で学校の宿題をしていますか。



6 進んで学習する姿勢を身につけましょう

学習に対して受け身ではなく、自ら進んで学習できると良いでしょう。

家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか。





平成28年11月